



【危害・危険情報】

令和8年6月16日
生活文化局

ペットボトル飲料の飲み残しに注意！

口をつけたペットボトル飲料の飲み残しを、そのまま放置していませんか。
気温が高くなる時期や車内などの高温環境で放置したペットボトルが破裂するなどの事故が発生しています。以下の「事故を防ぐポイント」を参考に、取扱いに気をつけましょう。



事故事例

- ペットボトルを車内に置いていたところ、暑さで膨らみ、開けようとした際に蓋が飛んで顔に当たった。
- 容器が膨らんだ状態で蓋を開けたところ、蓋が飛んで来てまぶたに当たり、腫れてしまった。
- 破裂したペットボトルの破片で指を切った。



事故を防ぐポイント

1. 早めに飲み切り、飲み残したときは冷蔵庫で保管しましょう

ペットボトルに飲み残しがある場合、**キャップ**をしたまま長期間放置すると、環境によっては細菌などの微生物が増殖し、ペットボトルの内圧が上昇して、**容器が破裂したり、開栓時にキャップが飛んだりする危険**があります。

- 飲み残したときは、**冷蔵庫で保管し、早めに飲み切り**ましょう。
- **廃棄する場合でも長期間放置しない**よう注意しましょう。



実験動画



ペットボトルの変化を撮影した動画（東京動画）

2. 車内に放置しないようにしましょう

夏の炎天下で車内にペットボトル飲料を放置すると、**未開栓のものでも、容器が変形するほど内圧が上昇**することがあります。

- 特に**炭酸飲料の場合は、容器が破裂したり、開栓時にキャップが飛んだりする危険**があるため、車内への放置は避けましょう。

【参考】

《商品等の安全性に関する調査・商品テスト》 暖かくなる季節、ペットボトルの飲み残しに注意！（令和4年4月22日）

https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/test/petbottle_press.html

詳しくはこちらをご覧ください。



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp>



問合せ先

東京都生活文化局消費生活部生活安全課

電話 03-5388-3082